

行きたい、住みたい、働きたい、 一歩先に行く元気な神戸へ

— 震災30年 過去・現在・未来をつなぐ結節点 —



神戸商工会議所

会頭 川崎博也

巻頭言

今、わが国経済は、失われた30年とも言われる低成長・デフレ経済から脱却する重要な転換点を迎えており、持続的な賃上げと活発な投資による成長型経済の実現が強く求められています。

機を同じくして、神戸は、あの未曾有の被害をもたらした阪神・淡路大震災から30年の節目を迎えました。創造的復興に取り組んできた神戸を次の一歩先へと進めるため、神戸商工会議所は次の3つの分野に重点を置き活動を進めてまいります。

第一は「中小企業の成長支援」です。

資金繰り支援などの経営相談はもとより、価格転嫁や取引適正化の後押し、若者や外国人材など多様な人材確保・活用の推進に注力し、伴走型支援、事業承継・再生を含めた総合的な経営サポート事業を展開してまいります。

また、将来人材の確保に向けて優れた技術や現場を紹介する「オープンファクトリー」や、災害やサイバー攻撃など不測の事態に備えた事業継続計画（BCP）の策定支援など経営力強化に向けた取り組みも進めます。

第二は「変化・変革、イノベーション創出」です。企業の「変化・変革」には、外部の知恵や技術を活用しながら、ともに新しいものを創り出していく「共創」という考え方が重要になります。

専門人材の不足が課題とされるデジタル化・DXの推進において、リスクリングをはじめとする人材育成や能力再開発に取り組む中小企業を後押しするとともに、専門家と連携のもと各企業の生産性向上・業務改革をサポートしてまいります。

また昨年末、地元企業の新規事業企画や協業促進、スタートアップの支援を目指し、2つの新たなコミュニティを発足させました。いずれも、変革への挑戦やイノベーション創出を後押しし、各企業の成果創出はもとより、新たなビジネスの創造にもつなげていきます。あわせて、神戸医療産業都市や水素スマートシティ神戸構想といった最先端の産業集積を生かし、特色ある企業の誘致・育成にも関係機関とともに注力してまいります。

第三は「交流人口拡大、都市機能強化」です。

この春には大阪・関西万博が開幕し、神戸空港には国際チャーター便が就航します。国内外からより多くのビジネス・観光の来街者を迎えることになりす。

この機に改めて、滞在型国際観光都市の実現を図るべく、神戸の魅力発信はもとより、広域周遊の促進や潜在需要・経済波及効果が期待されるMICEの機能強化、コンベンションセンター再整備の検討も急がねばなりません。インフラ整備の促進とあわせて、交流人口の拡大に向けて一段と力を入れてまいります。

震災30年の今年、神戸において過去から現在、未来をつなぐ結節点、極めて重要なターニングポイントになると考えています。先人たちの復興への思いや尽力を改めて胸に刻み、会頭就任以来掲げているスローガン「行きたい、住みたい、働きたい、一歩先に行く元気な神戸」の実現に向けて全力で取り組んでまいりますので、皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。